

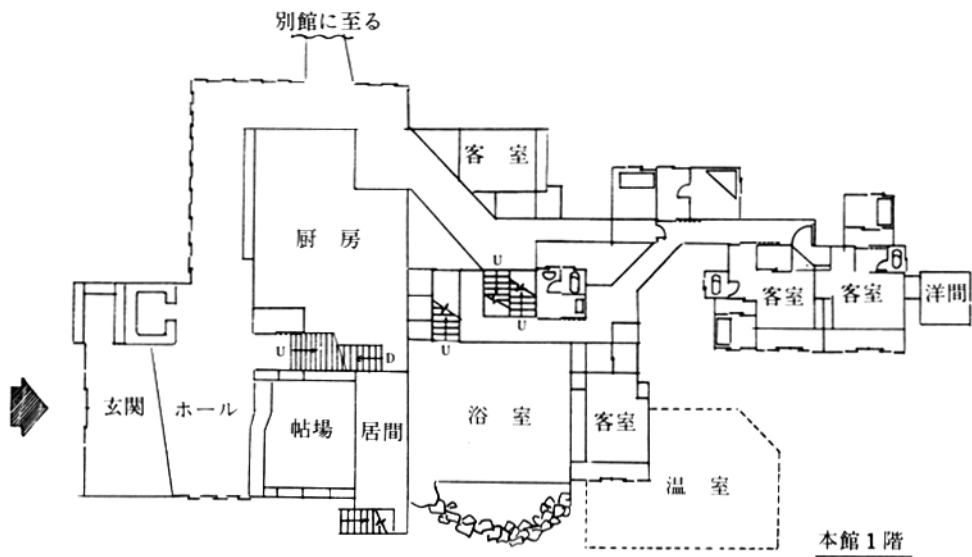
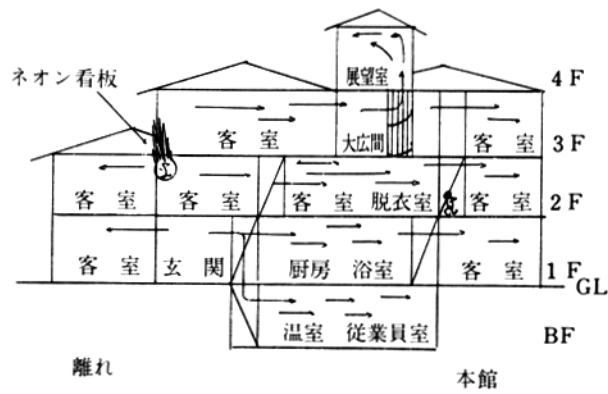
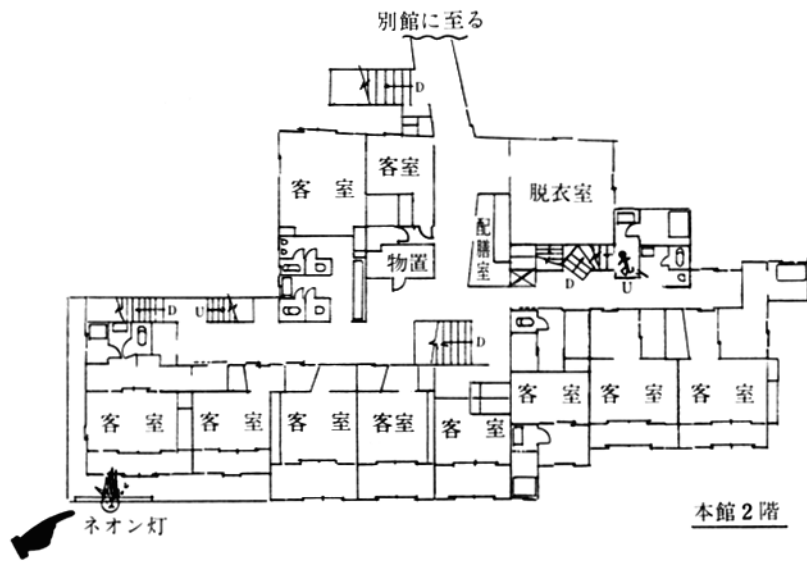
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積) 延 面 積	死 傷 者
熱川大和館 静岡県賀茂郡 東伊豆町奈良本 986～2	旅 館 (5)イ	昭和44年11月19日	防火造一部耐 火一部木造	全・半・部・小	死者 名 傷者 14名 (3)
		出火0時30分ころ 覚知0時45分 覚知別 加入電話 鎮火2時00分	延 3,497m ²	1,983m ² (57%)	

I 火災概要								
① 概 要	この火災は、深夜、屋外ネオン灯から出火して、本館部分がまたたく間に燃えつきてしまったが木造3階建の本館には、90余名もの宿泊客が就寝していたにもかかわらず、自動火災報知設備による早期覚知や従業員による避難誘導の積極的な措置等により、他の旅館災害と比較して人的被害が少なかった事例である。							
② 階 別 状 況	階	床面積	焼損床面積	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
		離れ m ²	m ²				屋内階段 避難器具 固定はしご 各階2 縄はしご 各階1	③ 内 自 非 誘 標 漏 ベル
	%	木造 232						
	%	木造 179						
		別館						
	%	木造1,103						
		本館			(従) 15			
	4	1,983	1,983	展望台				
	3			客室広間他	(客) 45			
	②			客室他	39	1		
	1			帳場厨房客室	7			
	B1			従業員室				
	小計	1,983	1,983		106			
合計	3,497	1,983		106	1			
③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 本館3階客室のベランダ下(玄関上部)に取付けてある屋外ネオン灯(旅館名表示)の広告灯から出火				④ 出 火 原 因	ネオン灯のトランスが絶縁不良となりショートにより火花を発生して可燃性内壁に着火したものと推定される。		

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(出火部位) 屋外ネオン灯</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(出火部位の拡大) ネオン取付けの 内壁に着火し拡 大する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(他室への拡大) 内壁から天井へ燃え移 り天井裏廊下等から客 室へ延焼する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(上階への拡大) 階段、床等から 上階へ延焼する</div> </div>			
	<p>屋内ネオン灯から短絡による火花を発し、ネオン取付けの内壁に着火してさらに天井へ延焼し木造建物のため一挙に火勢拡大し本館2階を炎で包みさらに屋内階段及び3階床面の燃え抜けから上層階へ延焼していった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 建物が木造老朽建物であったため一挙に拡大した。 ○ 煙の伝播経路 壁体内部の出火により煙は2階壁内空間及び天井裏を通じ拡散し、さらに開放された階段等の竅穴より3・4階へと上昇していった。 			
II 火災建物概要				
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 (営業) 昭和25年 月 日 (増築) 昭和34年以前 月 日			
管 理 状 況	② 竪 穴 の 状 況		③ 防 火 管 理 状 況	
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他(アムウェーター) <input checked="" type="checkbox"/> 防火区画なし		○防火管理者届出済 ○消防計画未作成 ○自衛消防隊は編成されていたが訓練は実施されていなかった。 ○夜間は警備員により1時間おきに館内を巡回している。 ○各部屋には避難経路図その他非常時の注意事項を表示し、団体客には幹事等を通じて注意していた。	
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等		⑤ 消 防 用 設 備 等	
	防火シャッターが設けられていたが開いたままであり、延焼防止上有効に使用されていなかった。		おおむね良好に管理されており、本火災時には、自動火災報知設備が早期に作動し、全館に鳴動しており、屋内消火栓を使用し本館から別館への延焼防止のための従業員が有効に使用している。	

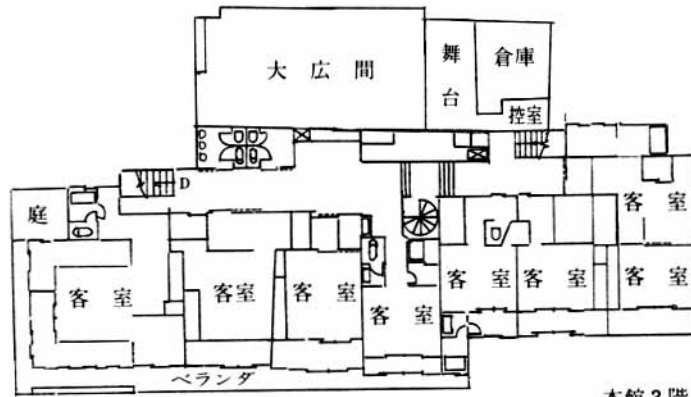
III 火災後の行動						
① 発見状況	<p>○ 発見者 (夜間警備員) ○ 発見の動機 (火花を発見) ○ 発見後の行動 (他の者に通報)</p> <hr/> <p>夜間警備員S男が1階玄関ホールにいたところ、0時30分ごろ屋外で爆発音と同時に火花が飛んだように見えたので屋外に出たところ、ネオン灯付近で火花が出ているのを確認し、内線電話で4階にいた専務に通報した。</p>					
② 通報状況	<p>通報 した <input checked="" type="checkbox"/> (警備員が警察に通報) 発見後約()分 しない <input type="checkbox"/></p> <hr/> <p>警備員Sは火災発見後内線電話で専務(4階)に通報し、その後熱川警察派出所と熱川電機(ネオン工事を行った会社)に同時に連絡したが、熱川派出所には通せず110番で下田警察署に通報した。(警察から消防に通報。0時45分) ※下田警察署に通報中自動火災報知設備の警報ベルが鳴ったが、客の無用の混乱を避けるためベル鳴動後1～2分して警報を停止した。</p>					
③ 初期消火状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">消火した</td> <td style="width: 35%;"> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;"> (理由又は状況) 知らせを受けた専務が、直ちに消火器を持って現場に行き消火に当たったが消火器の射程と2階外壁面が出火場所の関係から効果がなかった。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消火しない</td> <td> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> ○ その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 知らせを受けた専務が、直ちに消火器を持って現場に行き消火に当たったが消火器の射程と2階外壁面が出火場所の関係から効果がなかった。	消火しない	○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> ○ その他 <input type="checkbox"/>
消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 知らせを受けた専務が、直ちに消火器を持って現場に行き消火に当たったが消火器の射程と2階外壁面が出火場所の関係から効果がなかった。				
消火しない	○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/> ○ その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○ 消防隊到着時本館はすでに炎に包まれており、消火の主力は、別館及び周囲建物への延焼防止にあてられた。 ○ 消火栓は、水圧が低く支障をきたしたが、旅館の前は海であり、周囲には河川、貯水槽などの水利が近距離にあった。</p>					

	避難方法	避難上支障事項														
⑤ 避難	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input checked="" type="checkbox"/> (2 人) ○救助 <input type="checkbox"/> (人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> 														
状況	<p>○本館には 91 名が宿泊しており、ほぼ満室であったが、自動火災報知設備の警報ベルが鳴ったことと従業員が各部屋を廻り、火災発生を知らせ宿泊客の避難誘導を行ったため比較的負傷者を少なくしている。</p> <p>○3階の宿泊客 2 名が屋内階段より 2 階に降り、2階客室のベランダから地上露天風呂内に飛び降り重傷(骨折)をおっている。</p> <p>○避難完了確認後に電源をしゃ断したことにより、停電による混乱が防げた。</p>															
⑥ 死者	<table border="0"> <tr> <td>健康人</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(泥酔者)</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>要保護者</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>身体不自由者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>病人</td> <td>名</td> </tr> </table>	健康人	名	(泥酔者)	名	要保護者	1 名	乳幼児	名	高齢者	1 名	身体不自由者	名	病人	名	<p>避難上支障となった事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>
健康人	名															
(泥酔者)	名															
要保護者	1 名															
乳幼児	名															
高齢者	1 名															
身体不自由者	名															
病人	名															
状況	<p>死亡した 1 名(女性 65 才)は本館 3 階に宿泊しており、従業員の誘導により、同僚と 2 階、階段まで避難したが忘れ物に気づき同僚の制止を聞かず部屋に戻り、濃煙により脱出不能となったものと考えられ、本館中央階段付近で遺体となって発見された。</p>															
IV 問題点・教訓等																
<p>木造建築物に満室状態の宿泊客があり、しかも真夜中の就寝中という悪条件にもかかわらず</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夜間警備員が早期に発見し、必要な措置をとったこと。 2. 自動火災報知設備が作動し全館にベルが鳴動し火災を報知したこと。 3. 旅館内に男子従業員宿舎があり、この従業員が積極的に客の避難誘導にあたった。 4. 避難器具が比較的よく整備され従業員の誘導により活用されたこと。 5. 避難中、電気が供給され避難には支障がなかったこと。 <p>等により比較的死者が少なかった。</p>																





本館 4 階



本館 3 階